◆山本アナ　取材のコツ◆　これまでたくさんの方に取材をしてきた山本アナ。取材で意識することは「相手のことを知ること」だそう。明スポ部員一同、肝に銘じて活動していきます！

明スポ

『news23』キャスターとして活躍中！

忘れられない青春を

山本恵里伽アナ

ルーキー紹介〈2・3面〉硬式野球部特集〈6～8面〉

TBS報道の顔!!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。コロナ禍で生活に制限がある中、受験勉強を乗り越えてきた皆さんへ、明大OGの山本恵里伽アナウンサー（平28文卒）からメッセージを頂きました。山本アナは、学生時代に好きなことを追求したことが今の糧になっていると言います。これからの4年間、好きなことを見つけて、十分に大学生活を楽しめることを願っています！

舞台芸術に魅せられ踏み出した新天地

――明大に進学した理由を教えてください

東京にでたかったからです（笑）。テレビ局などのメディアの仕事に興味を持っていて、そのような仕事に就きたいと思っていました。（地元の）熊本よりも東京の方がチャンスがあるのではないかと思い、東京の大学に行こうと決めていました。それにプラスして映画や演劇、舞台芸術といった自分の好きなジャンルを学べるというところで合致したのが明大でしたね。

――演劇専攻出身ということで、専門的に学んできたことはありますか

小さい頃からオードリー・ヘプバーンや1960年代の映画になじみがあったので、（卒論は）オードリー・ヘプバーンの好きな部分と考察とを交えて2万字書き上げました。演劇専攻ではあるけれども、文学部は学部共通の授業というのもすごく多いですよね。だから何かを専門にというよりは、舞台芸術全般を広く満遍なく学ぶ所だったなと思います。でも、それによって映画や舞台を見る視点がすごく豊かになりますし、より好きなものを楽しめるようになりましたね。

――大学生になった時、熊本から上京して不安などありましたか

一人暮らしで親元を離れるのが初めてだったので不安でしたし、友達ができるかも心配だったのですが、意外と大丈夫です（笑）。一人暮らしは慣れるまで大変ですが、必要な経験だなと私は思います。地方から出てきて初めての土地や環境で不安だと思いますが、意外と大丈夫だよと声を掛けてあげたいですね。

――改めて、明大で過ごした4年間を振り返るといかがですか

楽しかったです。好きなことをひたすらやっていて4年間でしたね。サークルをそうだし、大学の授業も、好きなことしかなかったので、大学に行くことが苦になったことは一度もなかったです。

――和泉キャンパスと駿河台キャンパスのどちらが好きでしたか

どちらも好きですよ。でも、和泉の方がキャンパス感がありますよね。私は2年生のうちになり単位を取ってしまったので、3、4年生は大学に行くこともなかったです。それもあって思い出は和泉の方があるかなと思います。

――学食で好きなメニューはありますか

迷ったときのカレーですね。あと、油淋鶏！　たまに、ミスタードーナツが来たりしていてみんな長蛇の列でした（笑）。

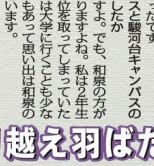
――コロナ禍で高校3年間を過ごしてきた新入生に、コミュニケーションにおいて何かアドバイスをお願いします

恐れずに声を掛けることではないでしょうか。基本的なことですが、初めて隣に座った人に「初めまして」と、友達になりたいなと思ったら遠慮なく声を掛けてみることが大切だと思います。コロナ禍のマスクはなかなかしずらくて、外した方が恥ずかしいと思ってしまう人も多いかもしれませんが、少しずつコロナ前のコミュニケーションに慣れていけばいいのではないかと思います。

コロナ禍乗り越え羽ばたけ新入生!!

――新入生へのメッセージをお願いします

まず、入学おめでとうございます。これまでコロナ禍で高校生活を歩んできた皆さん、つらいこともたくさんあったと思います。でも、ここまで、皆さんが入学してからの4年間はこれまで歩んできた道のりよりずっと明るいものだと思います。だから希望を持って、4年間どこかで楽しんでほしい、好きなことを見つけてそれにまい進してください。



インタビュー中の山本アナ

【聞き手・井垣友希、佐野悠太、新村百華】

明スポウェブでさらに詳しく→

山本恵里伽

◆山本　恵里伽（やまもと・えりか）平28文卒。1993年10月8日生まれ。熊本県出身。幼少期から母の影響で、映画や舞台芸術に親しみ、明大文学部文学科演劇学専攻に進学する。映画論や日本伝統芸能の授業を受ける中で、映画や舞台芸術への造詣を深める。卒論では、オードリー・ヘプバーンについて執筆。充実した大学生活を送った。また、中学、高校と放送部での活動を機に、マスコミに興味を持つ。大学在学中にアナウンススクールに通い、オーディションで見事学生キャスターの座をつかんだ。卒業後、TBSテレビにアナウンサーとして入社。入社1年目から報道に携わり、現在は『news23』のキャスターやラジオ番組『爆笑問題の日曜サンデー』のアシスタントを務める。

明治大学体育会

アナウンサーの1日

『news23』を担当する山本アナは、午前11時半から放送される『JNNニュース』にも必ず目を通す。「TBSは、この時間のニュースに力を入れている。アナウンサーとして視聴者に届ける3回の打ち合わせをこなし、いざ『news23』の本番。本番を終え、1日の疲れを癒やすのは、深夜ラジオを聞きながら湯船に浸かる時間。帰宅後、基本ずっと湯船で生活しているほど、お風呂が好きだそう。睡眠時間を削ることなく、常にベストな状態で仕事と向き合う山本アナの1日でした！

記者ハケン　キャスター

心地よいトーンの声と、山本アナが持つゆったりとした雰囲気にだんだんと私の緊張は ほぐれていった。所作や言葉の端々ににじみ出る品の良さ。バイトなどで失敗が多く、常にあたふたしている私とは大きく違う。取材中、大人の女性を感じさせる美しさに憧れを抱いた。20歳を迎え大人の仲間入りを果たしたが、私山本アナのような落ち着きと品格のある女性になりたい。そして「好きなことを夢中でやってきたからこの自分がある」という山本アナの言葉に勇気をもらい、自分の思う存分に大学生活を楽しみたい。【新村百華】

笑みを浮かべる山本アナ＜撮影者＝佐野悠太＞【切り込み】めいいろうとのツーショット

明大スポーツ
4月1日　土曜日
令和5年（2023年）
第527号
明大スポーツ部間
創刊　1925年
編集人　中村　謙吾
東京都千代田区神田駿河台1-1-1
TEL/FAX 03（3233）3760
http://meisupo.net/

香うどん丸香
新入生歓迎号
明大スポートは受験生・新入生を全力で応援します!!
受験生・新入生 応援サイト
明大生向けのお得な情報がたくさん!!
HPはこちら↓
学内福利厚生 旅行・留学サポート
教室外・資格サポート
明大グッズ 作成・販売
株式会社 明大サポート

ホイッスル

福島県で生まれ育った私にとって特別な日が今年も巡ってきた。死者・行方不明者を合わせて約22万人、47万人にも上る避難者を出した未曾有の大震災。あの日からは早12年が経った。震災当時、小学2年生だった幼かった私でさえ、あの日の光景を鮮明に覚えている◆NHK世論調査によると「東日本大震災の記憶の風化が進んでいるか」という問いに対し、全体の約7割が「そう思う」「ややそう思う」と回答した。時の流れと共に震災への関心が低下しつつあるのが現状である。被災地から遠く離れた場所で生活しているわたしたちとっては対岸の火事のようにも思えてしまうこともあるのだ。震災は縁遠いものとなっている◆現在、東日本大震災の被災地は12年の時を経て着実に復興へ向け歩みを進めている。だが、いまだに避難生活を強いられている人がいること、風評被害が残っていることも紛れもない事実だ。生まれ育った街の助けになりたいと思いながらも、学生の私だでは経済的な支援はろくに行えない。だが、無力と思える学生の私たちにもできることを風化させず、復興へ協力していくことだ。大災害を経験した者として、経験と教訓を伝えていく。それは実際に震災を経験した私たちにしかできないことであり、同じような被害を防ぐためにとても大切なことだ◆先日、テレビのニュース番組で、震災当時の記憶を小学生から伝える語り部活動」を行っている大学生が紹介されていた。震災を知らない世代が増え、世間の関心も薄れつつある今だからこそすべきことがある。自分と同年代の若者が震災と向き合い、自分にできることを考え、行動している様子に心を打たれた◆4年後の3月11日、穏やかな海にこだまする森閑の鐘の音を聞きながら心に誓った。自分にできることを考える。たえまなく心に小さくとも、撃する街の助けになるとも信じて。【齋藤隆哉】

新聞の転売はおやめください
年間購読のお申し込みは03-3233-3760
読み終えた新聞はお持ち帰りください

ご入学おめでとうございます
学校法人 明治大学
理事長 柳谷 孝
学長 大六野耕作
常勤理事 中里 猛志
大原 幸男
青野 覚
荒川 利治
理事 岡田 孝弘
安部井 茂
岩田 守弘
尾島 直幸
尾関 謙司
尾上 香
常勤監事 佐藤 健
監事 高岡 弘幸
奥山 幸

レイアウト　菊地隼人